平成 20 年 11 月 17 日

各　　位

会 社 名　　株式会社Ａ．Ｃホールディングス
代表者名　　代表取締役社長　　小林壮貴
（JASDAQ コード　１７８３）
問合せ先　　取締役情報管理責任者　竹澤　清
（TEL　03-5473-7722）

特別損失の発生及び平成 20 年 9 月期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 9 月期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）において、特別損失を計上いたします。その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 5 月 9 日付当社「特別損失の発生及び平成 20 年 9 月期中間期・通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生について

アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安により、株式・不動産価格の大幅下落と共に景気動向の先行き不安が益々増しております。このような経済状況の中、当社グループといたしましては、与信に関わるリスク管理により、資産状況および貸付先の財務状況等を厳密に精査し、評価基準の見直しを行った結果、以下の特別損失を計上いたします。

(1) 連結の特別損失の発生について

投資有価証券の評価損として 44 百万円、投資有価証券の売却損として 224 百万円、固定資産の除却損として 100 百万円、そして、貸付金等の回収可能性について厳密に精査した結果、子会社貸付金及び営業貸付金の貸倒引当金操入額として 636 百万円、更に、不動産価格等の大幅な下落により資産状況を精査した結果、投資不動産・固定資産及びのれんの減損損失として 627 百万円など 1,686 百万円を特別損失に計上いたしました。

(2) 個別の特別損失の発生について

子会社株式の評価損として 30 百万円、そして、貸付金等の回収可能性について厳密に精査した結果、子会社貸付金などの貸倒引当金操入額として 562 百万円、更に、不動産価格等の大幅な下落により資産状況を精査した結果、投資不動産及び固定資産の減損損失として 476 百万円など 1,084 百万円を特別損失に計上いたしました。

2. 平成 20 年 9 月期　業績予想数値の修正（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

(1) 連結業績予想数値の修正　（単位：百万円、%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当り当期純利益
前回発表予想	5,000	150	△360	△230	△54 銭
今回発表予想	4,388	25	△498	△2,295	△5 円 41 銭
増減額	△612	△125	△138	△2,065	―
増減率（%）	△12.2%	△83.3%	―	―	―
（ご参考）平成 19 年 9 月期実績	4,841	△60	△38	△4,422	△10 円 55 銭

(2) 個別業績予想数値の修正　（単位：百万円、%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当り当期純利益
前回発表予想	1,060	150	150	△400	△94 銭
今回発表予想	1,037	161	171	△1,455	△3 円 43 銭
増減額	△23	11	21	△1,055	―
増減率（%）	△2.2%	7.3%	14%	―	―
（ご参考）平成 19 年 9 月期実績	918	33	330	△2,747	△6 円 55 銭

3. 平成20年9月期　業績予想の修正理由

(1) 連結業績予想の修正理由

売上高は、前回予想の5,000百万円に対して、ＩＴ事業では当初予定通り900百万円となりましたが、ゴルフ・リゾート事業における売上高が前回予想の1,881百万円に対し、姫路相生カントリークラブ新規会員権販売における、急激な景気の冷え込みによる影響により294百万円減少し1,587百万円となり、建設事業の売上高が、前回予想の2,064百万円に対し、今期完工工事に一部工程遅れが発生したため、250百万円減少し1,814百万円となり、ファイナンス事業の売上高が、前回予想の155百万円に対し、貸付基準の見直しによる貸付を抑えた結果、24百万円減少し131百万円となり、計612百万円減少し、4,388百万円になりました。

営業利益は、売上高の減少により、前回予想の150百万円に対し125百万円減少の25百万円になりました。

経常損失は、売上高の減少及び有価証券売却損87百万円により、前回予想の△360百万円に対して、138百万円減少の△498百万円になりました。

当期純損失は、上記理由に加え、減損会計の適用等による特別損失（前項1.特別損失の発生について　参照）額を加味して修正した結果、前回予想の△230百万円に対して、2,065百万円減少の△2,295百万円になりました。

(2) 個別業績予想の修正理由

売上高は、前回予想の1,060百万円に対し23百万円減少し1,037百万円となり、営業利益は、前回予想の150百万円に対し11百万円増加し161百万円となり、経常利益は、前回予想の150百万円に対し21百万円増加し171百万円となり、ほぼ予想通りに推移しました。当期純損失につきましては、減損会計の適用等による特別損失（前項1.特別損失の発生について　参照）額を加味して修正した結果、前回予想の△400百万円に対して、1,055百万円減少の△1,455百万円になりました。

(注) 今回の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績につきましてはこれらの予想数値と異なる場合があります。

以　上